

【参考資料】

QS 社の世界大学ランキング「2007 THES-QS World University Rankings」作成経緯(抄訳)

QS 社のサイトには、2007 年のランキング作成に関する詳細レポートが掲載されています。

レポート全文は下記から参照可能です

(http://www.topmba.com/fileadmin/pdfs/meth_enhancements_2007.pdf)。

今回データベースが Scopus に切り替わった経緯について、上記レポートからの抄訳をご参考まで添付します。

改良点: データベースを Thomson 社の ESI から Scopus に変更

2006 年から調査対象期間を過去 10 年から 5 年に短縮しましたが、これは大学をより最新のデータで評価すべきとの提案を受けてのものです。2004 年に初めてランキングを作成した当時は、使用に堪えるデータとして知られていたのは Thomson 社 Web of Science の ESI のみで、大学の研究能力の評価基準を提供する製品として最適に見えました。

時を同じくして Scopus が 2004 年に開発され、急速に進化を遂げました。2007 年になると、ESI を使用していた 3 年間に未回答であった多数の疑問点に対して Scopus が対応し、今まで得ることのできなかつた多くの機関のデータの取得が可能となり、ESI に代表される Web of Science の断片的なデータよりむしろ Scopus の全データへの検索が可能となりました。公開データに基づいた一般的見解によると(Fingerman 2006)、どちらのデータベースにもそれぞれメリットがあり、相互補完的に使用されるものように見えます。Scopus についての指摘の大半は研究の追跡や 1996 年以前のデータに対するものであり、我々が必要とする直近 5 年間のデータに関してはなんら問題ないと判断しました。

効果:

1. Scopus データベースは米国の機関に対する偏りが少なく、米国機関への有利な判定が緩和されている
2. Scopus には数多くの論文やジャーナルが幅広く搭載されており、知名度が低く出版活動が弱い大学や学術機関のデータも網羅しやすい
3. Scopus は英語以外の言語も網羅しており、母国語による高品質かつ豊富な研究内容により、結果として非英語圏の機関のランク上昇につながった

#